

中国山東省・曲阜師範大学翻訳学院日本語科

田畑千秋¹・包芳²

Qufu Normal University is one of the key university in Shandong Province. It is located in Qufu, the hometown of Confucius---the great philosopher, educator and the creator of Confucianism. It has its new campus in the beautiful coastal city---Rizhao. In more than 52 years after its foundation, the university has been taking Confucius words as its instructional standard: - To retain curiosity in learning, to teach and never become weary.

The instructional standard also aims for a very healthy mood: diligence, simplicity, unity and personal initiative. It has trained and provided more than 140 thousand qualified graduates to society and it has been making a great contribution to the country's economic construction.

The university has one post-doctoral research station, six doctoral degree programs, 77 master degree programs of which seven are regarded as primary disciplines. It has 61 four year specialties which cover ten branches of learning including liberal arts, science, industry, law, and etc.. The university has one independent college (Xing Tan Independent College), 29 schools and departments, 28 research institutes, 14 provincial key programs, three provincial key laboratories and one social science research base. National Physical Educational Social Science Key Research Base, Ministry of Education Basic Education Curriculum Research Center in Qufu Normal University. Shandong Laser Polarization Engineering and Technology Center, Shandong Confucius Research Base and Shandong Physical Educational Social Science Research Base are also set in the university.

The university invited Dr. Ding Zhaozhong Nobel prize winner and a world famous Physicist as its honorary president. It also invited two academicians and two professors from different universities. There are 2262 faculty and staff. The faculty numbers 1393 of whom 219 are professors and 267 are associate professors. Seven young experts were respectively awarded national and provincial recognition for their exceptional contributions.

はじめに

中国山東省曲阜³といえば、世界的に有名な孔子の故郷である。その曲阜にある曲阜師範大学は、山東省教育庁直轄の重点大学で、通称を「曲師大」という（以下本稿では曲師大の通称を使用）。曲師大は中国初の学士、修士、博士の学位を授ける資格を持った大学のひとつで、また、中国初の外国人留学生受け入れ資格を有した大学である。

1955年の建学当初、キャンパスは曲阜キャンパスのみであったが、2002年、中国教育部（中国文部省）の政策によって、キャンパスを拡大、曲阜キャンパスに加えて、日照市⁴に日照キャンパスを開設した。

¹ 広島大学森戸国際高等教育学院客員研究員、曲阜師範大学翻訳学院日本語科教師、大分大学名誉教授。

² 曲阜師範大学翻訳学院日本語科専任講師。

³ 中国山東省済寧市に位置する県級市。総人口約65万人、市区人口約4万人。長く魯国の都として栄え、孔子の故郷として有名である。孔府（直系子孫が住居した屋敷）、孔廟、孔林（孔家の墓地で、孔子の子孫の墓10万基が林の中にある）は「三孔」とよばれ、世界遺産に登録され、現在、世界中からの観光客で賑わっている。

⁴ 中国山東省南部に位置する地級市。総人口約290万人。海浜が美しく多くの観光客を集めている。また、五蓮山などの景勝地も有名である。

現在、曲阜キャンパス、日照キャンパスにあわせて 28 の学院⁵と教育機関を有し、在籍学生数は、(2019 年調査時) 普通本科 33029 名、博士・修士院生 4205 名、成人教育 20000 名、外国留学生 100 名、全学あわせて、六万名弱である。

曲師大は、今日、教育・研究情報を世界にむけて発信し、日本、韓国、アメリカなど多くの国々と友好関係を結んでいるが(姉妹校など)、今後も世界各国との交流を深め、さらなる発展を目指している。

この稿では曲師大翻訳学院日本語科⁶の歩みと現在を紹介したい。

1. 曲阜師範大学

本学は1955年に山東省師範専科学校として建学されたが、1956年に中国教育部により、曲阜師範学院と改称、曲阜に移転した。その後、大きく発展し、1981年に山東省直轄の重点大学となった。1982年には修士課程を併設、1985年に曲阜師範大学と再改称、2003年に博士課程を併設した。

現在、28の学院および教育機関からなり、学部には85の専攻、修士には118の専攻、博士には34の専攻がある。

幾度かの改革で、曲阜キャンパスには文学学院、歴史文化学院、教員育成教育学院、数学化学学院、物理学院、化学化工学院、生命科学学院などが置かれ、日照キャンパスには法学院、経済学院、管理経営学院、翻訳学院、政治公共管理学院などが置かれている。



曲阜キャンパス

⁵ 中国の大学組織は、大学、学院、学部、学科の順に区分されている。ただし、翻訳学院は、規模からいうと日本の学部くらいに相当すると理解してもよい。

⁶ 日本語学部は日本の大学組織からいうと日本語学科くらいに相当するので、本稿では日本語学部を日本語科とする。



日照キャンパス

2. 翻訳学院

2007年、日本語科、韓国語科を有する東方言語文化学院と英語の翻訳を主とする英語科とが合併して、曲阜師範大学翻訳学院が創設された。

本学院は、中国翻訳協会の会員学院であり、中国認知言語学研究会常務理事学院でもある。

在勤教員は62名、そのうち、教授は6名、准教授は14名、ビジネス英語、英語翻訳、日本語、韓国語の四専攻に分かれている。毎年募集する学生は300名程度で、現在在学中の学部生は約1400名である。なお、大学院生の入学は毎年70名程度である。

学院には脳科学研究、同時通訳などの実験室も設けられ、様々な研究が展開されている。

3. 日本語科

1996年に日本語科が専科として創設され、その後2001年に学部内に位置づけられ、2011年に翻訳修士(MTI)、2012年に日本語言語文学修士を募集し始めた。

一学年の定員数は60名で、2019年調査時の在籍学部生は243名、修士院生26名である。本学日本語科(学部)の男女別比率は、女子学生が圧倒的に多く、243名中、218名が女子で、男子学生は25名である。2018年度入学生を例にとると、総数67名中、男子8名、女子59名である。

①教育目標

日本語科では、日本語と日本社会、日本文化、日本文学に関する知識を身につけ、将来、日本研究、中日交流、翻訳事務、日本語教育などの分野で活躍できる人材を育てていくことを目標としている。

②履修科目

日本語科では学年に応じたカリキュラムが用意されている。一年生、二年生は日本語能力を増進させるために、主に日本語精読、日本語会話、日本語聴解の基礎科目を勉強し、

三年生、四年生は応用力を身につけるために、上級日本語、日本古典文学、日本近代文学、日本文学史、日本文化、日本語概論などの科目を勉強する。

【必修科目】

基礎日本語、中級日本語、上級日本語、日本語精読、日本語会話、日本語聴解、日本語範読、日本語文法、日本概況、基礎通訳、基礎翻訳、基礎作文、日本近代文学、日本古典文学、日本文学史、日本語学概論、日本文化概論等。

【選択科目】

旅行日本語、上級日本語聴解、日本史、日本新聞範読、上級作文、上級通訳、上級翻訳、ビジネス日本語等。

【卒業論文】

卒業にあたり、四年生はそれぞれ指導教員の指導の下に 6000 字程度の卒業論文を提出、卒業答弁会（卒業論文発表会）を経て、その後の判定会議で、合格と認定されると、学士学位が授与される。

③学年度

中国の大学の年度は、九月に始まり、翌年七月に修了する。各年度は二学期制で、前期が八月下旬から翌年一月中旬まで、後学期が二月下旬から七月上旬までである。その間、一月中旬から二月下旬までは冬休み、七月中旬から八月下旬までは夏休みである。

各学期は二十週あり、各科目は週に最低一回、最高四回程度ある。すなわち、各科目の平均履修時間は、祝祭日もあるので 18 週、一コマ 2 時間として、およそ 36 時間程度である。

4. 日本語科教員

在勤教員は 16 名で、教授 1 名、助教授 3 名、専任講師 9 名、日本人教師 3 名である。そのうち、博士学位を持っている教員は 7 名（日本人教師 2 名を含む）である。修士学位も含め日本の学位取得教員は 9 名（日本人教師 3 名を含む）で、専門分野は、日本古典文学、日本近現代文学、日本語学、教育学、社会学、経済学などである。

5. イベント

①学的交流

学的交流を図るため、日本語科では常に国内だけでなく、日本からも講師を招いて講座を開設している。

②学会招致

国内学会、国際学会を問わず、毎年いくつかの学会を招致しているが、最近の主な学会開催のうち、二件をあげてみる。

一つは2017年度の日本教育情報学会国際交流研究会である。日本教育情報学会は学校、企業、社会における教育情報の流通をめざし研究活動を行っている。日本からも多数の研究者が参集した。

二つ目は2018年に第8回国際二宮尊徳思想学会である。国際二宮尊徳思想学会は、二宮尊徳の教えを現代社会のさまざまな課題解決に活かしていこうと活動する学会である。第8回大会を曲阜キャンパスで開催し、日本からも多くの学会員が参集した。



2017年度日本教育情報学会国際交流研究会



第8回国際二宮尊徳思想学会

③スピーチ大会

学生の日本語能力を向上させるために、年に一回日照市日本語スピーチコンテストを主催している。

また、2019年10月21日には、山東省全体のスピーチ大会を日照キャンパスで開催し、山東省全域から決勝に残った30名が、日本語能力を競った。

④姉妹校、友好校との交流

日本語科は日本の大学と友好関係を結び、常に交流活動を行っている。主な日本の大学は、山口県立大学、岩手大学、京都女子大学、富士大学、桜美林大学などで、交換留学生を派遣している。



曲師大主催スピーチコンテスト



日本山口県立大学との交流

6. 学生生活

中国の大学では学部生も院生も全寮制が基本であるが、他大学と違い、日照キャンパスは学生寮を持っておらず、日照市大学都市の学生寮を利用している。むろん、学生の管理も大学都市の管理機構に任せている。

実は、曲師大には外国語を専攻とする学院が二つあり、ロシア語科、フランス語科、英語科は曲阜キャンパスの外国語学院に所属し、ビジネス英語、英語翻訳、日本語科、韓国語科は日照キャンパスの翻訳学院に所属している。

①インターン活動

学部生は学校での学習だけでなく、カリキュラムによって、3か月の社会活動体験、すなわち、インターン体験が必須である。これは単位認定され、卒業条件となっている。

日本語科生は主に教育機関、貿易会社、また日本のサービス業などのインターンに参加する。



日本の会社でのインターン活動



山東省外交機関でのインターン活動

学部生のインターンはほとんどが二年生の夏休みに行われ、学生は自由意志で、中国国内、あるいは日本でインターン参加を選択できる。

②サークル活動

学習、研究のほかに、学内にはさまざまなサークルがあり、学生は自分の趣味でサークルに参加することができる。サークルは文化祭、競技大会などで日頃の成果を発表することができる。



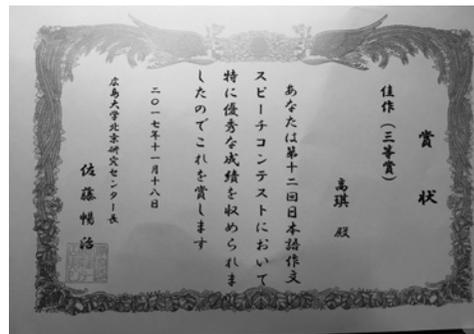
山口県立大学で着物体験



日本の大学生との交流



スピーチコンテストで二等賞入賞
(向かって左は指導教官として参加した包芳)



広島大学北京研究センター主催作文コンクールで
三等賞入賞

7. 学生進路

学部卒業生の主な進路は学校（教員）、民間会社、官公庁（公務員）、大学院等である。ちなみに2019年6月卒業生は54名、大学院進学は15名、主な進学先は、上海外国語大学、北京外国語大学、中国海洋大学、貴州大学、ハルビン師範大学、曲阜師範大学、日本の熊本大学、富士大学などである。

おわりに

学生は卒業までに日本語能力試験一級と中国翻訳資格三級の試験に合格できるよう、常に学習研究に励んでいる。前述したが、卒業後は大学院に進学する学生もいれば、就職する学生もいる。大学院は、国内だけでなく、日本の大学院に進学する学生も多い。例年、学生のほぼ三分の一程が大学院に進学している⁷。就職はといえば、高校の日本語教員、教育機関の日本語教員、貿易会社、官公庁が主な進路である。

最後になったが、日本語科はこれから、さらに多くの大学との交流を求めている。今後、広島大学森戸国際高等教育学院のご指導もいただければ、学生、教員にとってこのうえない幸いである。この場を借りてお願い申し上げたい。

【参考文献】

1. 『曲阜師範大学 2019 年度学生募集要項』 曲阜師範大学 2019 年 6 月
2. 『2018 年度曲阜師範大学学生部報告書』 曲阜師範大学 2019 年 3 月
3. 『山東省教育庁 2018 年度政府情報公開報告書』 山東省教育庁 2019 年 1 月

⁷ 2019 年度は日本語科卒業生の 28 パーセントが進学している。